

H31学力向上アクションプラン(日出町)

目標及び指標

【目標】

1. 「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善の徹底
2. 基礎基本の徹底(低学力層の底上げ)
3. 思考力・判断力・表現力の育成

| 達成指標 | 取組指標 |
|--|--|
| 町内全ての小・中学校が、「授業改善の5点セット」の検証指標を達成する。 | ・全教員は、互見授業、研究授業等で取組指標に基づいた授業を行う。 校内研究会では、新大分スタンダードに基づき、特に「生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業」の充実に向けて指導・助言を行う。 ・管理職や教務主任等のミドルリーダーを中心に、互見授業等を参観し、取組指標に関する具体的な指導・助言を授業者に行う。 ・各校は、「授業改善の5点セット」の中間検証を短期で行い(7月、12月、2月)取組内容が不十分な点については、改善を行う。 |
| 日出町標準学力調査において、正答率60%未満の児童の割合を小学校20%以下、中学校は正答率50%未満の生徒の割合を30%以下にする。 | ・全教員は、評価規準を具体的に設定し、評価規準に達しない児童生徒への手立てのある授業を毎時間行う。 ・各小学校は、朝学習の充実やドリルタイム等の工夫。 ・各中学校は、朝学習や放課後を利用して補充学習の実施 家庭学習の充実。(数学・英語データベースの活用) ・単元末のテストで、小学校は学校ごとに、中学校は実施教科ごとに目標値を設定し、低学力層の減少に向けた対策、取組を行う。 |
| 日出町標準学力調査において「活用」の平均正答率が、全小・中学校の全教科で全国平均を超える。 | ・各校で全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査の結果を分析し、日頃の授業の改善に活かす。 ・各校で、全国学力学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例を活用した授業や研修を積極的に行う。 ・全教員は、学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員の公開授業に1回以上参加する。 ・小学校は、朝自習や補充学習等、中学校においては、定期テストに活用問題を出題。 教員は授業において、児童生徒が自分の考えを広げたり、深めたりするために効果的な交流の場を設定。また、思考ツールを積極的に活用したりする。 ・教員は、児童生徒の主体的な学びにつながる課題の質の向上に取り組む。 |

行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- 組織的な授業改善を行うため、
 - ・学校教育目標の重点、学力向上プラン、授業改善5点セットとの連動。検証指標に基づき、短期(7・12・2月)の検証・改善を実施。
 - ・管理職や主幹教諭、教務主任等のミドルリーダーを中心に授業参観を実施。授業観察シートをもとに、具体的な指導・助言を行う。
- 教員同士の授業力向上のため、各学校において、年2回以上の互見授業を実施。
- 思考力・判断力・表現力等の育成に向け、
 - ・主体的な学びにつながる「課題の質の向上」及び「生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業」の充実を図り、校内研究会において、適切な指導助言を行う。
- 小学校における低学力層の底上げのため、各校は単元テストの目標値を設定し、達成が不十分な場合は、個別指導や朝学習の充実を図る。

②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

- 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築するため、
 - ・日出中では教科担任のタテ持ちを継続
 - ・大神中学校に理科の学力向上支援教員を配置し、低学力層の底上げに向けた授業改善を推進する。また大神小学校5、6年の理科も担当し、小中連携による授業改善を推進する。
引き続き大神小学校の教務主任等と連携し小中の接続を意識した教育課程の改善を図る。
- 授業改善に向けた取組を推進するため、教科部会(日出町教育研究協議会)での授業研究を実施し、指導案審議または授業研に可能な限り指導主事が参加する。
- 生徒と共に創る授業を推進。めざす授業像を共有し、生徒による授業評価を実施。授業改善につなげる。
- 中学校は、定期テストにおいて教科ごとに目標値を設定し、達成が不十分な場合は、放課後の補充学習や朝学習の充実を図る。

③小学校教科担任制の推進に関して

- 教員の教科指導力向上、生徒指導の充実を図るため、各学校の実情に応じて、技能教科を中心に教科担任制を検討する。
- 教科担任制を取り入れた先進地の取組について、その効果や校内の運営体制等を研究する。

④新学習指導要領の実施等に関して

- 教員の授業力向上を図るため、
平成31年度より、外国語活動を小学校3・4年生で35時間、5・6年生で70時間実施。
習熟度別指導推進教員(中学校英語)の公開授業や外国語部会の研究授業に、積極的に参加させる。
- 学校教育目標の実現に向け、
 - ・学校教育目標を学習指導要領に示された三つの柱に添って整理。
 - ・教育目標と総合的な学習の時間で付けたい資質・能力を一致させ、生活科・総合的な学習の時間においては、教科横断的な視点から、単元配列表を作成。各教科領域との関連を図るよう指導する。
 - ・学校運営協議会を活用し、体験活動を中心に地域の人材活用をすすめ、教育課程に位置付ける。
- ICT機器等の環境整備をすすめるとともに、プログラミング教育への理解と授業のイメージをつかむため各学校においてプログラミング教育についての研修や授業研究を行う。